

PRESS RELEASE

2023年12月15日

各位

本店所在地 東京都千代田区麴町二丁目1番地
会社名 そーせいグループ株式会社
(コード番号 4565 東証プライム)
代表者 代表執行役社長 CEO
クリストファー・カーギル
問い合わせ先 IR & コーポレートストラテジー部
西下進一朗
電話番号 03-5210-3290 (代表)

資金調達完了のお知らせ

2023年11月28日の発表の通り、当社は海外募集による新株式の発行（以下「海外新株発行」）および2028年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債（以下「新発CB」）の発行ならびに株式会社産業革新投資機構（以下「JIC」）傘下のJICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社（以下「JIC VGI」）が運営するJICVGIオポチュニティファンド1号投資事業有限責任組合（以下「OPF1」）を割当先とする第三者割当による新株式の発行（以下「第三者割当増資」）を実施し、同時に既発の2026年満期新株予約権付社債（以下「既発CB」）の買入消却（以下、海外新株発行、新発CBの発行、第三者割当増資および既発CBの買入消却を総称して「本資金調達」）を行いました。本資金調達の背景について、以下の通りご説明いたします。

【I. 本資金調達の目的】

本資金調達の目的は主に以下の3点になります。詳細は本資金調達実施に関する決議時の[プレスリリース](#)をご参照ください。

A) 既発CBの返済期限延長

既発CB発行時の[プレスリリース](#)の通り、投資家の繰上償還（当社から最大300億円の返済）が2024年7月から可能となるため、あらゆるシナリオ下でも十分な投資余力を確保すべく、新発CBの発行と既発CBの買入消却を組み合わせ、実質的な返済期限延長を行いました。

B) 成長加速のための資金確保

英国における従来の創業プラットフォームに加え、新たに加わった日本・APAC（中国を除く）における開発販売のプラットフォームを最大限活用し、戦略的成長をさらに加速させるための資金を確保しました。詳細は【II. 本資金調達の内訳】をご覧ください。

C) 医薬品領域に深い知見を持つ長期投資家からの出資受け入れ

JIC VGIは医薬品領域に深い知見を持つ中長期的な支援を視野に入れた政府系ファンドです。当社の株主基盤の更なる安定化と、日本・APAC（中国を除く）を含めた当社の成長戦略に共感いただけるパートナーとして出資を受け入れました。詳細は【IV. 第三者割当増資の意義】をご覧ください。

本書は、当社の新株式の発行および転換社債型新株予約権付社債の発行に際して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。なお、同株式および同社債については国内における募集又は売出しは行われません。また、本書は、米国を含むあらゆる地域における同株式および同社債の募集を構成するものではありません。米国1933年証券法に基づいて同株式および同社債の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において同株式および同社債の募集又は販売を行うことはできません。米国において証券の募集又は販売が行われる場合には、米国1933年証券法に基づいて作成される英文目録見書が用いられます。なお、本件においては米国における同株式および同社債の募集又は販売は行われません。

PRESS RELEASE

【Ⅱ.本資金調達の内訳】

本資金調達で得た約 421 億円のうち、約 313 億円を既発 CB の買入消却に充当し、既発 CB を新発 CB に置き換えることで実質的に返済期限を延長しました。手数料等を除いた残りの正味調達額約 104 億円は、主に以下の成長投資に充当する予定です。詳細は発行条件決定時の[プレスリリース](#)をご参照ください。

- ① 開発品・製品の導入 当社はインライセンスに加え、後期開発品のオプション権を保有
- ② 後期開発品の開発・販売 権利保有済みの 2 つの自社品に加え、①による獲得の可能性
- ③ 創薬機能の強化 GPCR に対する創薬プラットフォームを有し初期臨床試験を実施中

【Ⅲ.本資金調達の概要】

本資金調達では、以下の 1~3 の資金調達、ならびに 4 の既発 CB の買入消却を同時に実施しました。「3. 新発 CB の発行」は潜在的な希薄化要因ではあるものの、株価が一定の水準を上回らなければ転換されないため希薄化の抑制が期待されます。「2. 第三者割当増資」では希薄化は発生するものの、割当先は中長期的な支援を視野にいれた政府系ファンドであり、短期的に市場で売却される可能性は一般的に低いと認識しております。上記を踏まえ、短期的に市場に売り出される可能性があるのは「1.海外新株発行」の 1,500 千株（発行済株式数の 1.8%）となり、希薄化による影響は限定的だと理解しています。

	発行価格	株数	株式の希薄化（潜在含） ^a
1. 海外新株発行	約 21 億円	1,500 千株	1.8%
2. 第三者割当増資	約 80 億円	5,610 千株	6.8%
3. 新発 CB の発行	約 320 億円	約 17,957 千株（潜在）	21.8%（潜在）

	買入金額	株数	株式の希薄化（潜在含）
4. 既発 CB の買入消却	約 313 億円	約-13,356 千株（潜在）	-16.2%（潜在）

	正味調達額	株数	株式の希薄化（潜在含）
本資金調達合計	約 104 億円	実質的増加：7,110 千株 潜在的増加：約 4,601 千株	実質的な希薄化：8.6% 潜在的な希薄化：5.6%

^a 各要素の計算は以下の通り（小数点第 2 位以下・千株以下四捨五入）

- i. 海外新株発行による希薄化：1.8% = 1,500 千株 / 82,337 千株
- ii. 第三者割当増資による希薄化：6.8% = 5,610 千株 / 82,337 千株
- iii. 新発 CB の発行による潜在的希薄化：21.8% = 17,957 千株 / 82,337 千株（17,957 千株 = 32,000 百万円 / 1,782 円（転換価格））
- iv. 既発 CB の買入消却：-16.2% = -13,356 千株 / 82,337 千株（-13,356 千株 = -29,850 百万円 / 2,235 円（転換価格））
実質的な希薄化：8.6% = 1.8% + 6.8% | 潜在的な希薄化：5.6% = 21.8% - 16.2%

本書は、当社の新株式の発行および転換債型新株予約権付社債の発行に際して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。なお、同株式および同社債については国内における募集又は売出しは行われません。また、本書は、米国を含むあらゆる地域における同株式および同社債の募集を構成するものではありません。米国 1933 年証券法に基づいて同株式および同社債の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において同株式および同社債の募集又は販売を行うことはできません。米国において証券の募集又は販売が行われる場合には、米国 1933 年証券法に基づいて作成される英文目論見書が用いられます。なお、本件においては米国における同株式および同社債の募集又は販売は行われません。

PRESS RELEASE

【IV.第三者割当増資の意義】

OPF1は、2023年9月にJIC VGIを運用会社として組成されたダイレクト・セカンダリーや上場済みスタートアップへの資金供給を戦略とする、中長期的な支援を視野に入れたファンドです。また、OPF1は政府の「スタートアップ育成5か年計画」に盛り込まれたJICの取り組みの一つです。OPF1を運用するJIC VGIはこれまでに多くのヘルスケア・ライフサイエンス領域の企業に投資してきた実績があり、幅広いネットワークを保有しています。

当社代表執行役社長CEOのクリストファー・カーギルは、次のように述べています。「OPF1が当社へ約80億円投資いただいたことを喜ばしく思います。JIC VGIはこれまでも政策的に意義のある事業分野への投資を行っています。本日発表したOPF1からの資金調達は、当社の事業の発展が日本のヘルスケア産業の発展にとって重要であり、かつ当社の事業に飛躍的な成長の可能性があるということの評価いただいた結果だと考えています。OPF1を通じた今般の資金調達を契機に、当社はさらに事業の拡大を加速させ、日本発の国際的なリーディングバイオ医薬品企業となることを目指して、引き続き挑戦を続けていきます。」

JIC VGIは、次のように述べています。「この度、JIC VGIが新たに設立したOPF1からそーせいグループへ出資することができ大変光栄です。OPF1は上場後スタートアップの持続的かつ飛躍的な成長を支援しています。そーせいグループのこれまでの豊富な提携実績や国内での販売実績に加え、中長期的な事業戦略を高く評価いたしました。本投資がそーせいグループのグローバル・バイオテックへの成長を促し、最終的には日本の裨益につながることを期待しています。こうした目標達成に向けて株主として適切なエンゲージメントを行ってまいります。」

以上

JIC VGIについて

JIC VGIは、JICが主体的に設立するファンドを通じてベンチャー・グロース投資活動により我が国のイノベーションを促進し、国際競争力の向上、日本の産業および社会課題の解決を目指すことをミッションとしています。

JIC VGIを運用者とするJICベンチャー・グロース・ファンド1号投資事業有限責任組合ではユニコーンに成長する可能性を持つスタートアップを選定し、グロース・レイターステージでの投資を通じてIPO前の更なる成長を支援しています。また、JICベンチャー・グロース・ファンド2号投資事業有限責任組合においても成長資金が必要なシリーズB以降のエクспанション、グロース、レイターステージのスタートアップを主たる投資対象としつつ、ディープテックやライフサイエンス領域のアーリーステージ以降のスタートアップへの投資にも注力しています。OPF1では、「ダイレクト・セカンダリー戦略」、「アフターマーケット戦略」を掲げ、ユニコーンの創出や有望な上場済みスタートアップの持続的かつ飛躍的な成長支援の受け皿となることを目指しています。[\(参考リンク\)](#)

PRESS RELEASE

Sosei Heptares について

当社グループは、フルセットのバイオ医薬品企業であり、世界をリードするサイエンスによって人生を変える医薬品を生み出すことをミッションとし、日本発の国際的なリーディングバイオ医薬品企業になることを目指しています。

当社グループは、英国における世界をリードするGタンパク質共役受容体（GPCR）をターゲットとした StaR®技術、構造ベース創薬（SBDD）ならびに初期開発力と、日本における経験豊富な臨床開発力および商業化事業とを組み合わせ、グローバルに事業を展開しています。

これらの能力を活かし、神経疾患、免疫疾患、消化器疾患、炎症性疾患など複数の治療領域において、新薬候補物質の幅広いパイプラインの創出および研究開発の加速に取り組んでいます。当社グループは、自社開発、あるいは大手グローバル製薬企業や新興バイオ医薬品企業との提携を通じて、日本および世界の患者さまのため価値創出につながる医薬品の開発を図ります。

当社グループは、東京、大阪、ロンドン、ケンブリッジ、バーゼル、ソウルの主要拠点で事業を展開しています。

「Sosei Heptares」は、東京証券取引所に上場しているそーせいグループ株式会社（証券コード4565）のコーポレートブランドです。「そーせい」、「Heptares」、当社グループのロゴおよびStaR®は、当社グループの商標または登録商標です。

詳しくは、ホームページ <https://soseiheptares.com/> をご覧ください。

LinkedIn: [@soseiheptaresco](#)

X: [@soseiheptaresco](#)

YouTube: [@soseiheptaresco](#)